

## ボランティアのつどい（2月23日）記録まとめ（抜粋）

### 1. 総合分析

テーブル1～9の自由意見を横断的に整理し、**共通テーマ・特徴・課題・今後の方向性**の4つの視点から総合分析しました。

---

#### 1.1. 全体傾向（最も多く見られたキーワード）

テーブル1～9を通して特に頻出したテーマは以下の通りです。

- ① 「楽しい」「うれしい」「ありがとう」  
→ 感情的充足が最大の原動力
  - ② 人とのつながり・仲間  
→ ボランティアは“関係づくり”の場
  - ③ 高齢期・人生100年時代  
→ 生きがい・健康維持としての活動
  - ④ 子ども支援・不登校・外国籍支援  
→ 次世代支援への強い関心
  - ⑤ 認知症予防・介護予防  
→ 高齢社会に対応した活動
  - ⑥ 継続の大切さ  
→ 「続けること」自体が価値
- 

#### 1.2. 横断テーマ別分析

---

##### 1.2.1. ボランティアの本質観

（テーブル1・7・9に特に顕著）

多くの参加者が

- 「人のため」
- 「自分のため」
- 「楽しむため」
- 「ライフワーク」

といった言葉を挙げています。

◆ **特徴**

- 他者貢献と自己実現が両立している
- “義務”ではなく“主体的選択”
- 人生後半の自己再定義の場

👉 ボランティアは「社会参加」から「人生設計の一部」へと深化している。

---

### 1.2.2. 高齢期の生きがい・健康維持

(テーブル 1・3・4・5・7・9)

頻出語：

- 人生 100 年
- 認知症予防
- ボケたくない
- 健康第一
- 83 歳・85 歳でも活動

◆ **特徴**

- 活動そのものが健康づくり
- 声を出す・話す・動くことの価値
- 「必要とされる」ことが活力源

👉 ボランティアは“予防福祉機能”を果たしている。

---

### 1.2.3. 子ども・若者支援の広がり

(テーブル 2・3・4・6・8・9)

内容：

- 不登校支援
- 学習支援
- 外国籍児童
- 若いボランティア増加
- 世代間交流

◆ **特徴**

- 「居場所づくり」重視
- 成長を見る喜び
- 若者参加を望む声

👉 次世代育成と高齢者の経験が結びつく構造が形成されている。

---

#### 1.2.4. 障がい者支援・専門性の高さ

(テーブル 1・2・4・7・8)

内容：

- 点訳・拡大写本
- 手話
- サウンドテーブルテニス
- 白杖 SOS
- 傾聴

##### ◆ 特徴

- 高度な専門性
- 研修・学習意欲が高い
- 地道で継続的

👉 「技術ボランティア」としての成熟段階にある。

---

#### 1.2.5. “楽しさ”が継続の鍵

(全テーブル共通)

共通語：

- 楽しい
- 続けたい
- 笑顔
- 喜ばれた

##### ◆ 分析ポイント

- 楽しさがなければ続かない
- 楽しさが仲間を呼ぶ
- 楽しさが広報になる

👉 ボランティア推進の最大戦略は「楽しさの可視化」。

---

#### 1.2.6. つながり・対面の価値 (AI 時代との対比)

(テーブル 5・7・9)

- AI がライバル

- face to face
- 人の声を望む

- ◆ 分析

デジタル化が進む中で

“人間的接触の価値”が再確認されている。

👉 今後の方向性は「デジタル+対面の融合」。

---

### 1.2.7. 共通課題

横断的に見えた課題：

課題	内容
担い手不足	若い世代の参加
広報不足	活動を知らない人が多い
運営負担	人数増加で大変
男性参加	男性に呼びかけ
多様性対応	外国籍・障がい・不登校

---

### 1.3. 総合的な特徴（全体像）

テーブル 1～9 を通じて見えるのは、

🌀 **「地域内循環型ボランティア構造」**

1. 高齢者が元気になる
2. 子どもや障がい者を支える
3. つながりが広がる
4. 仲間が増える
5. 地域力が高まる

という循環が形成されている。

---

### 1.4. 来年度に向けた戦略的示唆

① **若者参加の入口づくり**

- 体験型イベント
- 学校連携
- SNS 活用

- ② **楽しさの発信**
    - エピソード共有
    - 感謝の声の可視化
  - ③ **高齢者の専門性活用**
    - 技術ボランティア育成
    - スキル継承
  - ④ **多様性対応強化**
    - 外国籍支援
    - 不登校支援
    - 男性参加促進
  - ⑤ **災害・地域連携強化**
    - 平時のネットワーク構築
    - ボラセン訓練活用
- 

## 1.5. 総括一文

テーブル 1～9 の分析から、  
ボランティアは単なる支援活動ではなく、  
**「人生 100 年時代の生きがい・健康づくり・地域循環の基盤」**  
として機能していることが明らかになった。  
そしてその核心は、  
「楽しい」「ありがとう」「人とのつながり」  
である。

---

